

【ご意見1】

まず冒頭に PTA 会長、役員の皆様、そしてタスクフォース委員会の皆様の多大なる労に感謝を申し上げます。

私は審議会案凍結に賛成致します。

財政上の運営について審議会側の説明に完全に納得しきれていない他、放火事件が未解決であることに今もわだかまりがあります。審議会のやっていることはおかしいのではないかと明確に疑問符が付き始めたのはやはりこの事件がきっかけであり、幾ら審議会が何も隠すことはないと言張されても、それを額面どおりに受け取ることが出来ません。今、審議会の説明に大半の保護者が納得しきれていない、素直に聞けないのも、この事件を引き起こした審議会への不審が根強く、払拭しきれていないからではないでしょうか。

審議会からの資料もここに来て、細かなものとなってきましたが、今思えば前事務局長が退任された後、急に詳細になったように思いますし、何故こうした説明責任が少なくとも5月末の説明会の時点で行われていなかったのかと、残念に思います。（客観的に見て、5月末の説明会は一つの重要なターニングポイントで、もしこの説明会で審議会側がもう少し誠意を尽くされて、微々たる配布資料、冒頭から強圧的な言葉、題材で保護者へ翻意を促すような講演、という方法と違った手段をとってれば、その場で理解は得られずとも、保護者間の空気は多分に違ったものになっていたと想像されます。）

いくつかの間借りの土地を経てようやく手に入れた場所、そして地元住民となる為必死の努力を重ねて、漸くそれが実現し真に Greenwich に馴染もうとしているのに放火事件未解決という疑念付きで成り立った交渉の上に売却されることをどうしても受け入れる気にはなれません。報道では退任後もこの交渉は自分しか出来ないと言豪語されていたという前事務局長の退任も、非常にひっそりとしたもので、あまり説明がなされていませんし何か売却のために人身御供とされてしまわれたのかとも思ってしまう。

ここに来て売却へ向けて漸く審議会側も説明責任という点で本当の行動を起こされようとしています、今がスタートラインなのかもしれません。もし審議会があくまで売却に固執されるなら、何か別の疑念のない、極めて透明性の高い交渉に成り立った別の案件を探されてはどうでしょうか。

最後に私が申し上げるまでもなく、この案件は食うか食われるかのビジネスの世界の話ではなく、未来を託す子供の将来に関することであることをもう一度審議会の方には考えて頂きたいと思います。そして現在の決定を翻意されることが、相手校から例え非難されようと、面子が潰れよう、子供の未来を託している保護者の大半は賛辞を惜しまないであろうことも。

以上

【ご意見 2】

はじめまして。この2学期から転入しました。転学して、初めてこうした問題を知り、驚いております。まだ問題そのものがわたしどもには不透明な点がありますが、いただいた資料などから、やはり審議会の考えには納得いかないものを感じております。

先週金曜、マンハッタンでの説明会に夫が出席したさい（土曜日は都合が悪かったので金曜日に出席しました。）、審議会の方が、「教育的な見地から、校長先生が売却をよしとされないなら、売却をしない」という発言をされたそうです。ほかの曜日の説明会でも同様の発言があったのでしょうか？ ほかのPTAの方からは、校長先生は売却に反対されているとうかがったので、それならば、校長先生にはっきり、「売却は教育的な見地から反対だ」と、審議会に伝えてもらえばいいのではないかと、思い今回こちらにメールさせて頂きました。ただ、そういう発言の裏には校長先生が、審議会に反対するような発言を絶対されない、という自信というか、確信があるのでしょうか？？

なんとか、今の校舎を、環境を、異国で過ごす子供たちに残してあげたいです。まったく移転後の具体的プランがないままの売却は、おかしいと思います。文部科学省の意見、あるいは日米の教育学の専門家からの意見も聞きたいです。また、今後生徒を増やす手立てはまだまだあると思います。実際、子供を入学させて驚きましたが、英語の授業が予想より充実していました。それに、子ども自身には負担がかかりますが、低学年では、週の学習時間が日本の公立校に比べ多いです。例えば、1年の息子が通って杉並区の区立校やシンガポールの日本人学校（3年前、娘が1年に在籍していた時点）よりも、6から7時間も多いです。

（もしかしたら、休みの期間などを考慮すると、年間の授業数はかわらないのかもしれませんが。）多い分の半分以上が英語に割り振られています。シンガポールでは、週に2時間、英会話の授業がありました。こちらでの授業のほうが充実しているような気がします。また、それぞれの学年の校外学習や修学旅行の行き先（例えば、今年の8年生のホワイトハウス訪問など）もアメリカならではの、素晴らしいと思います。…しかしながら、残念なことに、こうした情報は日本にいる間、まったく知ることができませんでした。我が家は日本語を大切にしたいと思っていたので、ほぼ、日本人学校と決めていましたが、現地校と日本人学校で迷われている保護者が、こうしたGJSのよさを知りえたら、日本人学校を選択される割合は、きっと増えると思います。ホームページ、海外帰国子女財団の月刊誌、こちらの情報誌などで、積極的にアピールすべきだと思います。審議会はこうした努力をすべきだと思います。

最後に、提案というか、質問ですが、GJSの財務状況は審議会側、PTA側の見解が完全に異なり、わたしのような素人には数字を見ても判断が付きません。経費がかかるとは思いますが、バイアスのかからぬ第三者に公平に評価してもらうことはできないのでしょうか？ GJSの財務状況が、性格にどの程度危ないのか、危なくないのか。PTAのボランティア会員の方が出された結果に疑いを持っているわけではありません。ただ、審議会がPTA側が甘く見すぎているというのなら、別の評価を見せたほうがいいのでは？と思いましたので。

会長様はじめ、タスクフォースの皆様、これからも宜しくお願いいたします。

[ご意見 3]

足立会長：

先々週の総会、及び先週の審議会説明会と大変お疲れ様です。

さて、本日投票用紙を受領いたしましたが、投票内容が非常に限定された選択肢となっており、適切ではないと思いましたので、メールをお送りいたしました。

「審議会案を一旦凍結し、代替案を含めてPTAと審議会が共同で解決方法を検討する」ということのほかに、少なくとも

- ・ 審議会案に反対する（PTAのみで今後の方向性を検討する）
- ・ 審議会案に賛成する

という選択肢があるべきで、明らかに誘導した内容であると感じます。

今回は時間もありませんので、投票用紙はコメントを加えるなど工夫して期日までに提出するようにいたしますが、こうした意見があることをお知りおきいただきたいのと、今後はフェアな投票内容となることにご留意いただけることをお願いいたします。

[ご意見 4]

PTA 役員のみなさまへ

私たち子どもたちのためにいつも献身的に活動してくださってありがとうございます。感謝しています。臨時PTA総会、審議会説明会が何回かあり、ある程度、双方の考えがわかりました。

ひとつ、学校（校長先生）の考えという視点が欠けているように感じているのは、私だけでしょうか？ 審議会会長も現場を重視すると言っているのに、校長先生のお考えが全くみえてきません。（校長先生はわざと何も言われないのでしょうか？）

校長先生のお考えを聞く場は、設けられないのでしょうか。（時期が早い？）

【ご意見 5】

足立会長をはじめとするPTAタスクフォースの皆様へ

いつもお世話になり、ありがとうございます。

9月3日に行われた、説明会に参加した感想を一言だけ言いたくてメールしました。

私は現在日本人学校9年生の母です。9年生ということで、残すところ半年ですが現在のあの狭苦しい教室で、暑さと格闘しながら受験勉強をしている姿を、みているととても切なくなります。あの狭い教室を是非、審議会の方々に見てもらいたいと思うほどです。一方では、広々とした旧中等部にたった4人で、事務をさされていると聞きました。

何なのでしょう？やっぱり、子供のことは置き去りで企業人として、決められ仕事（売却）を終わりにするだけという、感じを受けました。

もしあの最初の説明会のときに旧中等部から移転しなければ、現審議会事務局も来なかったと思いますし、生徒たちももっと伸び伸び授業を受けられたと思うと悔しくなります。

審議会事務局はこのまま売却が済むまで、あの場に居座るのでしょうか？

説明会でものらりくらりと、何の明確な回答も得られなかったように思います。

先日の説明会は一体何だったのでしょうか？

審議会のメンバーの泣き脅しとも取れるような挙手の求め方、声を荒げて場を制する高圧的な態度にとっても不愉快になりました。

あの審議会の方々、仮にも大企業のトップであることで、何事にも、権力という筈で片付けようとしている感じがしてとても嫌でした。企業のトップからの圧力という話も出ていましたが、私は上司から呼び出された時点で圧力だと考えています。呼ばれた方は、自分の子供の事だから真剣に考えるのは当たり前だと思います。

足立会長が前々からおっしゃっていた、これは「子供の教育」という問題の一番大事なことから、数字の赤字ということに、論点が摩り替わっているように思われてなりません。

私たち母親は、説明会でも意見をおっしゃっていた、あの女性の気持ちが本当の母の気持ちなのです。

なのに、いつも回答は数字の赤字のことばかりでとても残念でした。

確かに経営のことは大事かもしれませんが、もっと子供のことを考えてほしいと思います。

なぜそんなに、審議会（大企業）は売却を推し進めるのでしょうか？

しなければならぬ何かがあるのでしょうか？

そういう風に勘ぐられても、仕方ないようなやり方に理解できません。

いろいろ、書きたい事ばかりでまとまりのない文になってしまったことをお詫びし、是非これからも私たちの子供のために頑張ってください。

私も子供も、日本人学校が大好きでなくなって欲しくないから、応援しています。

【ご意見 6】

PTA常任委員会の皆様

いつもお忙しいなかのご尽力一父兄として感謝しております。

私は昨年・一昨年と審議会理事を勤めさせていたため意見にバイアスがかかっているかもしれませんが お許しください。

少なくとも一父兄として私の一番の関心ごとは「学校として質の高い教育を子供たちに提供してくれるのか」であり家主の名前でも赤字・黒字でもありません。敷地を売る売らないは一種の経営判断で長期的に学校を存続させるためにはどうすべきか誰かがどこかでその責任において判断する必要があり審議会にその判断はゆだねるべき事だと思います。

今の議論は赤字・黒字売らなければならないのか無いのかというところにエネルギーが集中しているようです。一方学校は教育を子供に提供し父兄はその対価として授業料を払っているにもかかわらず、新しい環境に変わったときに「学校としてより質の高い教育を子供たちに提供できるのか」というところにはあまり多くの議論が行われていないと感じております。PTAは名前のおりご父兄と先生がたが対等に話が出来る場です。是非最新の案をもとに先生がたと協議し学校として本来目標としている教育が提供出来るのか現場の管理責任者である校長先生はどの様にそれを実現しようとしていて他の先生方はそれをどのように支援しようとしているのかそれは父兄として容認できるのかという観点での議論をしていただきたくおもいます。それが一番大事だと思います。学校の目的である教育が提供できないのなら審議会は今の案を廃案せざるを得ないと思います。坂本理事長も校長先生が出来るといえる環境を提供することを非常に大事に考えていらっしゃると思いますので校長先生の同意なしには先には進めないとおっしゃったのだと思います。いまだ明確に理解できていないのは先生がたが質の高い教育を提供するにあたり本件のために発生した阻害要因が今残っているのかいないのかです。校長先生および先生方がこうするから出来ると言っているのであれば私にはそれ以上の心配はありません。

蛇足ですが生徒数の増加が本当に凶れるのならその分は今学校に通われている先生がたのお子様を他校に転校していただく等考えるべきだと思っております。日本の公立の学校でもこちらの公立の学校でも先生のお子様在同一の学校に通われることは無いと理解しております。これは問題があったから申しているわけではなく長期的に見た場合に本当に質の高い教育を与え続けるためのひとつの阻害要因になりうるから考えるからです。

一意見としてご参考になれば幸いです。

以上

[ご意見]

売却リースバック問題に関し、保護者を代表してご尽力いただいている足立会長はじめPTA役員ならびにタスクフォースの皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、今般の審議会主催の説明会のうち、私自身は9月3日開催の説明会に出席させていただきましたが、その際に感じたことを2、3述べさせていただきたいと思います。内容にまとまりがありませんが、ご容赦ください。

1. 財政状況の議論について

会計に疎いものですから、今回の審議会の説明につきましても良く理解できたわけではありませんが、「会計（P L）」と「キャッシュフロー」がきれいに整理されていない印象を受けました。

例えば、審議会の財政見通しでは、政府による支援が終了した後は赤字幅（実際、赤字なのかどうなのかもはっきりしていませんが）が大きく拡大する説明であったと理解しています。しかしながら、この赤字増大は会計上は減価償却負担が政府支援の終了後も続くために生じるもので、キャッシュには基本的に影響を与えないものと思います。

PTAからのレターでも再三指摘されていますが、論点はあくまで、現状で推移した場合、財政（キャッシュ）の持続性はどの程度あるのかということだと思いますし、学校や審議会は営利目的ではないので、本件に限って言えばP Lは無視して、キャッシュフローだけで議論を進めた方が保護者にもわかりやすいのではないかと思います。

2. 審議会への対応について

本件に対する足立会長のご尽力については、保護者はみな非常に感謝していると思います。また、私のような一保護者でさえ、審議会の対応ぶりについては不信を禁じえないことを考えますと、直接審議会と議論をされている足立会長およびタスクフォースの皆様への審議会への不信はその比ではないと思います。

しかしながら、本件については好むと好まざるとに関わらず審議会を相手として議論を進めていかざるを得ず、この点を考えますと、必要以上に審議会を刺激するのは避けたほうが良いのではないかと思います。

具体的には、3日の説明会においても、審議会理事のカワムラさんという方が「審議会は子供のことを考えていないとPTAは言っているが、本当にそう思っているのか。思っているなら挙手しろ。」とすごんでいましたが、審議会の方々もまず間違いなく子供のことを考えていると思います。他方で、保護者ではない以上、審議会の方々には保護者に比べて引け目といったら変ですがそういうものはあると思いますし、それが故に、この点を指摘することは審議会をより感情的にして、彼らの自案に固執させることになるのではないかと懸念します。

子供が第一であるというのは子を持つ親として全くその通りだと思っていますが、ここはあくまで冷徹に、まずは審議会の財政状況の精査だけに集中すべきではないかと思います。その結果、仮に現状維持が難しいということであれば、「では子供に可能な限り悪影響を与えない次善の策として何があるか。」ということ

を検討すべきだと思います。

3. 坂本会長の発言について

3日の説明会に限らず、それ以前の説明会でも聞きましたが、「(売却リースバックをキャンセルしても、それによって違約金等を払う必要は契約書上ないが) 1年以上かけて先方と交渉してきたことを良く考えて欲しい。」旨の発言をされています。しかしながら、これは全く筋違いの発言であり、審議会が先方との交渉等で苦勞をしてきたのは事実ですが、それは審議会内部の話であって、本件を検討する要素にはまったくなり得ない事項だと思います。

こうした発言が今後も続く場合には、PTA として、「かかる発言は本件の検討とは何ら関係ないものであり、また、そのような発言を行うことは保護者の気持ちを傷つけることになる。」と指摘すべきではないかと思っています。

以上

[ご意見 8]

PTA 役員のみなさま

審議会からのレターにあった、「校長先生の発言」は、本当でしょうか？（5日の説明会には主席していませんので）

本当だとしたら、校長先生が3月の臨時PTA総会での発言・行動は何だったのかと思います。（校長先生の発言は信用できないということです）

本当でないとしたら、審議会は、やはり全く信用できないし、PTAと理解を深めようというのはうそということになります。

いずれにしても、事実が知りたいです。

[ご意見 9]

足立会長およびタスクフォースの皆様

初めて送らせて頂きます。

私は9年の男の子の母親です。9年という立場では来春には卒業して、私と息子は帰国する身であります。しかし、今年3月に学校説明会が初めて開かれて、その後に8年有志による中等部校舎移転反対の署名活動が行われたときから、売却への危惧をずっと感じておりました。

3日の審議会説明会を聴いての感想ですが審議会の財務担当の方によるテクニカルな財務数字の件に関しましては素人の一主婦の私にはよくわからない説明でした。

(主人は審議会の資料を見て、不明な点がいくつかあるようで、信頼できないと言っています。)

私は難しいことはわかりませんが、審議会にとってはいくらでも都合のいいように作り上げることができるんだという感じを受けました。この点は黒木さんに是非解明して頂けることを願っております。

子供同士のトラブルがあった際の責任の所在や対応についても審議会会長はいつも前向きに検討していくという発言でなんら具体的な策を考えておられません。答えになっていません。

また、自らが贅沢わがままによる財政難を言っておきながら、足立会長が補習校事務局長の退職金問題を問うと、この場に関係ないとか個人のプライバシー侵害とか逃げ口上です。プライバシーと言っておきながら財務担当の方が関さんと実名をもらしていたのには驚きました。

アップル学級父兄への帰任案や恐喝電話なども関係ない話ではないと感じました。理事達に都合が悪くなると足立さんを攻め立てる姿には呆れました。

また、理事である方が部下を就業時間中に集めて説明したことは圧力にならないと言っていた副会長の話もおかしいと思います。解雇という言葉がださなかったから圧力にならないというのはどうでしょうか。聴いた相手が圧力と感じたら圧力だと思います。普通、誰でも上司から言われればそう感じるのではないのでしょうか。

ジャックマン氏のすばらしい意見や質問に対しても売却案に信念をもっているという答えだけで答えになっておらず、いささか興奮されていたのには驚きました。私をもっとも驚いたことのひとつに、副会長の方がひどく感情的になり激昂されたことです。あの方は議論の場をどう考えておられるのでしょうか。

売却案に替わるパーフェクトなPTA案があれば取り入れる心積もりはあるような事を言っていました但し信じられません。キャンセル料も考え云々…と言いましたが契約していないのにキャンセル料など発生するのでしょうか。いずれにせよ3日の説明会を聴いて私個人が感じたことは審議会は何がなんでもGJSを売りたいということ、そして絶対にそうしなければならない何かがあるという事を感じました。

長々と書き連ねましたが、足立会長のことを誹謗する声もあると聴いて心配しております。会長はじめタスクフォースの皆様にはNY日本人学校と子供達のためにご努力頂いてほんとうにありがとうございます。最後に感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

[ご意見10]

もし、売却阻止できた場合の収入増への提案です。

1、現地校を選ぶ理由に、「英語の習得」以外の理由があるのではないか？

ーただ単に、現地校が近く、送り迎えが楽だから

ー日本なら給食があるのに、日本人学校には、ない。週5回お弁当を作るのは、大変なので避けたい。

現地校なら、Buy Lunch があるので、楽。

①現地校のように、希望者は、保護者が学校まで送迎、もしくは、自宅近くまでスクールバスがきてくれるようなバスラインの設定、Townへの働きかけ

②週2回、好き嫌いを言わなければ、業者のパン・弁当の購入ができ、お弁当を作らなくても良い日がある。ということ、入学前から情報としてのせる。

2、中等部で、行っているアフタースクールのスポーツ教室のPR

および、同様に、アフターのESL教室の開催の検討

→Townへの働きかけが必要になりますが・・・。

3、転入生への、Englishの個別フォローの検討

4、特待生制度の導入の検討

5、9年生の1学期からの在籍者に限り、日本人枠の日本の高校の推薦枠があることをPR

6、日本人学校による、サマーキャンプの開催の検討

7、日本の私立校の、帰国子女枠に日本人学校が、適用になるよう、英語力の向上、PR

ー私立校の帰国子女枠での入学を希望するために、現地校に転校する生徒を減らす方策の検討